

ダビデ
聖徒伝 88

「神への忠実を貫こう」

I サムエル記23～24章 ダビデ、洞穴でサウルを見逃す

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 荒野の追撃と逃走 23章
～詩篇54篇～
- II. ダビデ、サウルを見逃す 24章
～詩篇57篇～
- III. まとめと適用
ダビデが見つかった希望の源



【無垢の時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

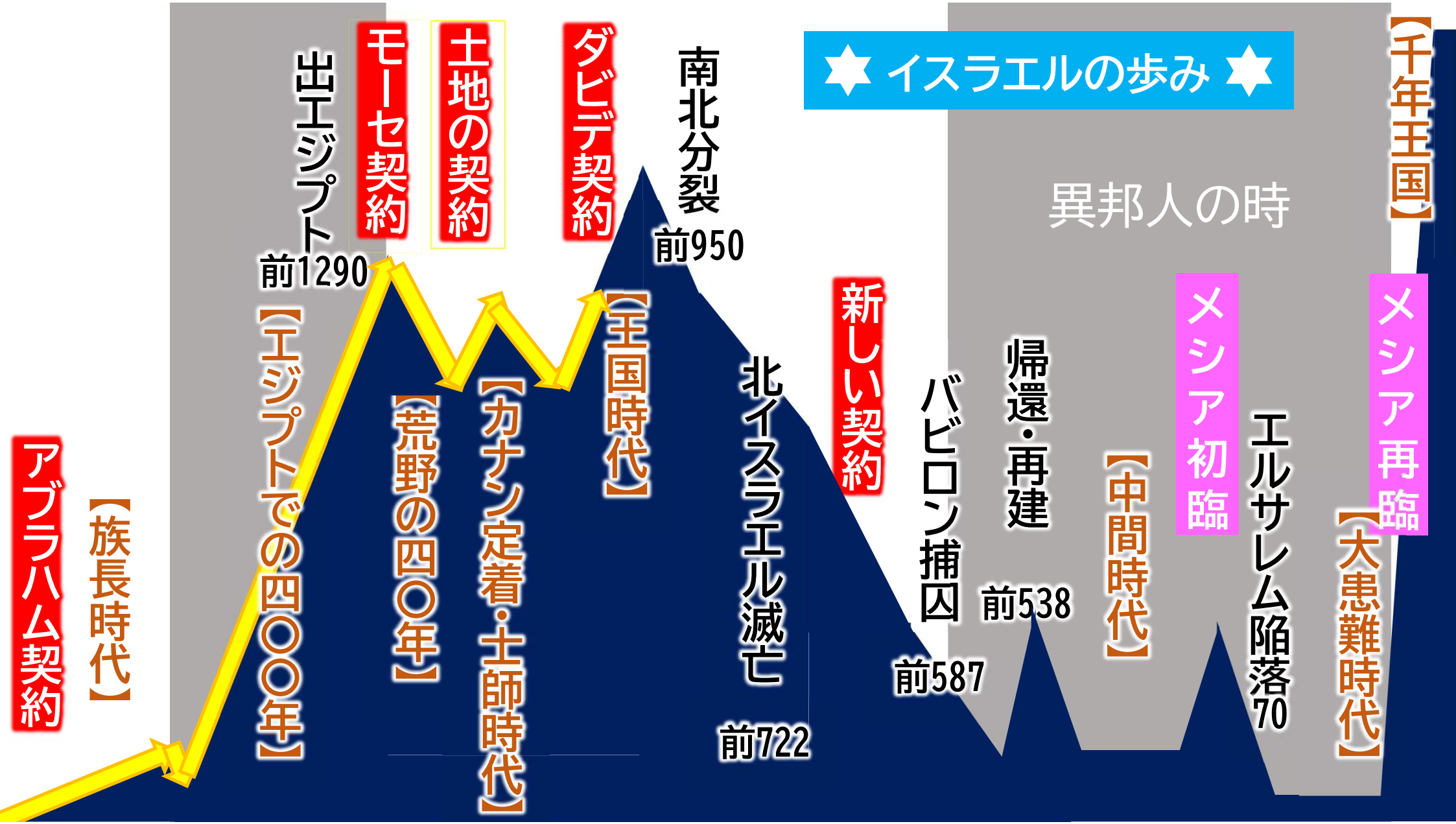
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト
前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂
前950

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

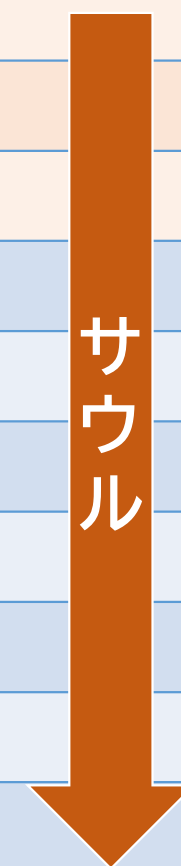
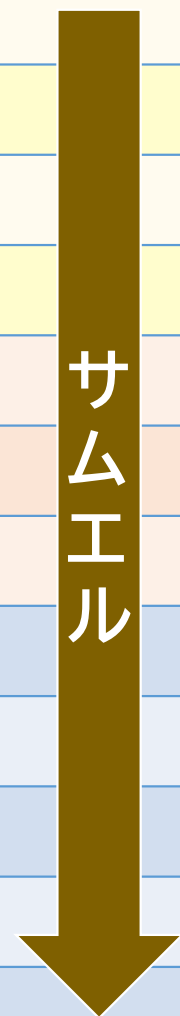
サムエル記 第一

士師時代

サムエル	1:1~2:11	サムエルの誕生
サムエル	2:12~3:21	サムエルの召命
サムエル	4:1~7:17	奪われた契約の箱
サムエル	8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

王政時代

サウル	10:11~11:15	油注ぎ
サウル	12:1~25	士師サムエルの民への告別
サウル	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
ダビデ	16:14~23	王宮での奉仕
ダビデ	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
ダビデ	18:1~30	偉大な戦績・王の娘との結婚
ダビデ	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
ダビデ	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
ダビデ	31:1~13	サウルの死



【ダビデの油注ぎ】 I サムエル11～17章

- サウルは、主に背き、神の目に、王権すら剥奪された。
→ 主の霊はサウルを去り、悪霊に苛まれる日々に。
- 神は、御心に叶った**真実の王**を立てた。それがダビデ。
ユダのベツレヘム。エッサイの8番目の子に油注ぎが。
→ この日以来、主の霊はダビデに激しくくださった。
- 当初、豎琴弾きとしてサウルに仕えていたダビデは、
ペリシテの巨人ゴリヤテを倒し、兵士として名を挙げた。
- “サウルは千を討ち、ダビデは万を討った”
民の歌に、サウルは、ダビデに激しい嫉妬を抱いた。



【ダビデの逃亡】 I サムエル18～22章

- サウルのダビデへの嫉妬は、殺意に変わった。
ダビデは、ヨナタンと別れ、一人、荒野に逃れた。
- ペリシテ人の町ガデに逃げたダビデは捕らえられ、
気がおかしくなったふりをして難を逃れた。
- サウル王は、祭司アヒメレクと一族を、ダビデを支援
したことで厳しく咎め、虐殺した。
- エブヤタルが一人生き残り、ダビデの元に逃れてきた。
親族や困窮者たち400名がダビデの元に集っていた。



【この時点でダビデがメシアについて知っていたこと】

- “女の子孫”として生まれ、犠牲を払い、悪魔に勝利。(創世記3:15)
- アブラハム → イスラエル → ユダの子孫に生まれる。(創世記49:10)
- 「**ダビデ契約**」を神と結ぶのは、イスラエルの王となってから。
 - この契約で、**ダビデ王家の子孫にメシアが誕生すると明らかに。**
- しかし、「**ダビデの詩篇**」には、多くのメシア預言が!!
 - 聖霊に満たされたダビデが神にささげた賛歌。
- ダビデは、苦難の中、約束のメシアに救いを求め、神から与えられた断片的なメシアの姿を歌った。





I. 荒野の追撃と逃走

I サムエル記23章

ユダの荒野

【ペリシテ人の略奪隊】 I サムエル23:1~2

「今、ペリシテ人がケイラを攻めて、打ち場*を略奪しています」と言って、ダビデに告げる者がいた。

ダビデは【主】に伺って言った。「行って、このペリシテ人たちを討つべきでしょうか。」【主】はダビデに言われた。「行け。ペリシテ人を討ち、ケイラを救え。」

*麦打ち場(脱穀場) …収穫した作物を略奪に来た。

時期は、4~5月頃。

➡これ以降のダビデの逃走は、乾期のことか。



【たじろぐ部下たち】 I サムエル23:3~4

ダビデの部下は彼に言った。「ご覧のとおり、私たちは、**ここユダにいてさえ*** 恐れているのに、ケイラのペリシテ人の陣地に向かって行けるでしょうか。」

ダビデはもう一度、【主】に伺った。すると【主】は答えられた。「さあ、ケイラに下って行け。わたしがペリシテ人をあなたの手に渡すから。」

***ホームグラウンドのユダにいてさえ…。**

まして、アウェイの戦いに臨むなど。



【祭司エブヤタルとエポデ】 I サムエル23:5~6

ダビデとその部下はケイラに行き、ペリシテ人と戦い、彼らの家畜を奪い返し、ペリシテ人を討って大損害を与えた。こうしてダビデはケイラの住民を救った。

アヒメレクの子エブヤタルは、ケイラのダビデのもとに逃げて来たとき、**エポデ*** を携えていた。

***エポデ** …大祭司が着る装束。ワンピースの織物。

■一番上が、12部族を示す12の宝石で飾った胸当て。

この胸当てに、裁きの石**ウリム**と**トンミム**を入れた。

➡この石で、神に伺いを立てた。イエスか、ノーか。

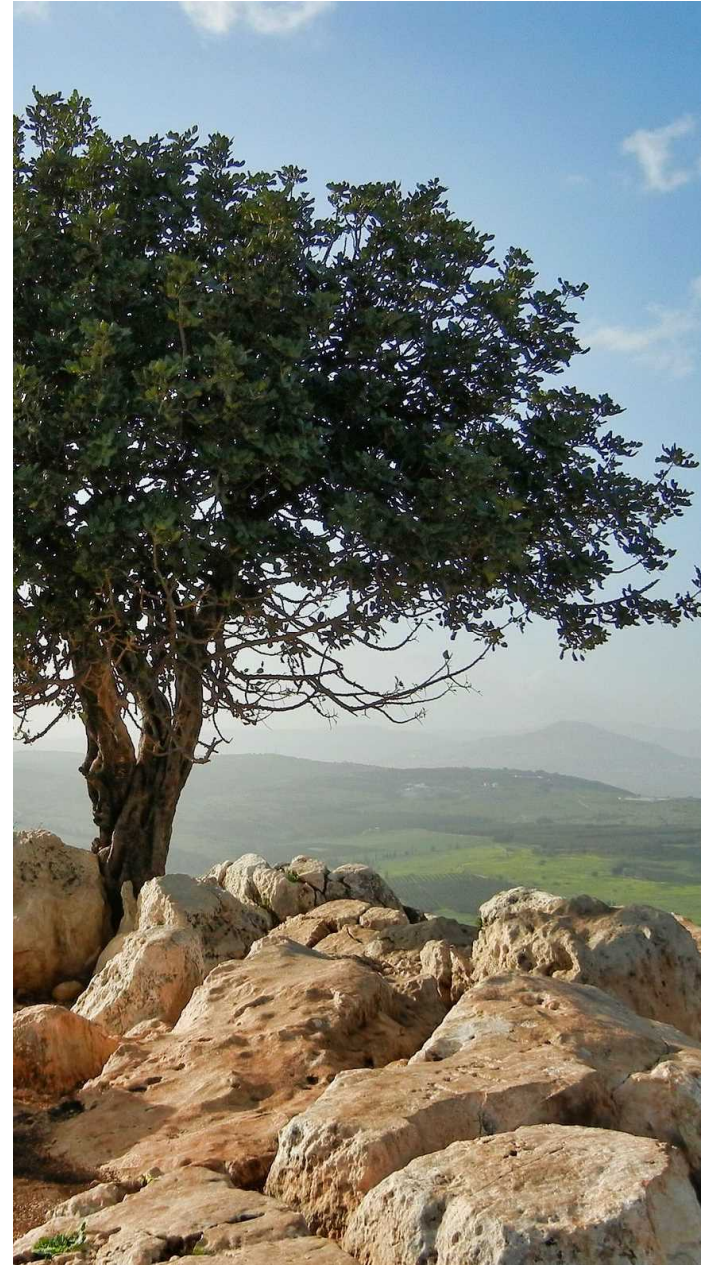


【兵を召集するサウル】 I サムエル23:7~8

一方、ダビデがケイラに来たことがサウルに知らされると、サウルは、「神は彼を私の手に渡された。彼は扉とかんぬきのある町* に入って、自分自身を閉じ込めてしまったのだから」と言った。

サウルは、ケイラへ下ってダビデとその部下を攻めて封じ込めるため、兵をみな召集した。

*この時代の町は、基本、城壁に囲まれていた。



【迫る危機】 I サムエル23:9～11

ダビデは、サウルが自分に害を加えようとしているのを知り、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」

そしてダビデは言った。「イスラエルの神、【主】よ。しもべは、サウルがケイラに来て、私のことで、この町を破壊しようとしていることを確かに聞きました。

ケイラの者たちは私を彼の手引きに引き渡すでしょうか。サウルは、しもべが聞いたとおり下って来るでしょうか。イスラエルの神、【主】よ。どうか、しもべにお告げください。」
【主】は言われた。「彼は下って来る。」



【逃れるダビデ】 I サムエル23:12~13

ダビデは言った。「ケイラの者たちは、私と私の部下をサウルの手に引き渡すでしょうか。」

【主】は言われた。「彼らは引き渡す。」

ダビデとその部下およそ六百人は立って、ケイラから出て行き、そこここと、さまよった。ダビデがケイラから逃れたことがサウルに告げられると、サウルは討伐をやめた。



【ジフの荒野にて】 I サムエル23:14～15

ダビデは、荒野にある要害に宿ったり、ジフの荒野の山地に宿ったりした。サウルは、毎日ダビデを追い続けたが、神はダビデをサウルの手に渡されなかった。

ダビデは、サウルが自分のいのちを狙って、戦いに出て来たのを見た。そのとき、ダビデはジフの荒野のホレシュにいた。



【ヨナタンの訪問】 I サムエル23:16～18

サウルの息子ヨナタン* は、ホレシュのダビデのところに行って、神によってダビデをカづけた。

彼はダビデに言った。「恐れることはありません。父サウルの手が、あなたの身に及ぶことはないからです。あなたこそ、イスラエルの王となり、私はあなたの次に立つ者となるでしょう。父サウルも、そうなることを確かに知っているのです。」

二人は【主】の前で契約を結んだ。ダビデはホレシュにとどまり、ヨナタンは自分の家に帰った。

ダビデと連絡をとりあっていた？ 警告も？



【ジブ人の密告】 I サムエル23:19～21

ジブ人たちは、ギブアのサウルのところに上って行って、言った。「ダビデは私たちのところに隠れているではありませんか。エシモンの南、ハキラの丘のホレシュにある要害に。

王よ。今、下って行こうとお思いでしたら、下って来てください。私たちが彼を王の手に引き渡します。」

サウルは言った。「【主】の祝福があなたがたにあるように。あなたがたが私のことを思ってくれたからだ。」



【先兵の派遣】 I サムエル23:22～23

「さあ行って、さらに確かめてくれ。彼が足を運ぶ場所と、だれがそこで彼を見たかを、よく調べてくれ。彼は非常に悪賢いとの評判だから。

彼が潜んでいる隠れ場所をみな、よく調べて、確かな知らせを持って、ここに戻って来てくれ。そのとき、私はあなたがたと一緒に行く。彼がこの地にいるなら、ユダのすべての分団のうちから彼を捜し出す。」

- 今度は逃さないと、周到に情報収集するサウル。
裏切り者もあぶりだして、一網打尽ということか。

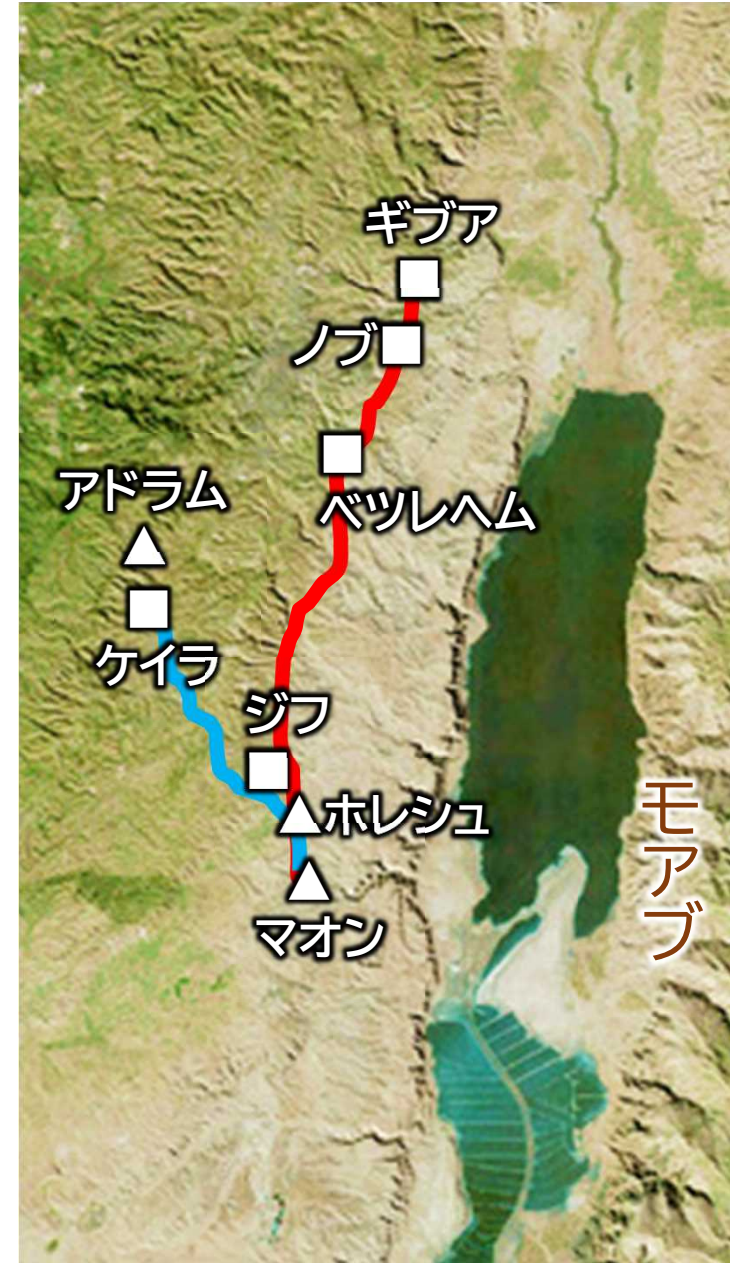


【追われるダビデ】 I サムエル23:2425

彼らはサウルに先立ってジフへ行った。一方、ダビデとその部下は、エシモンの南のアラバにあるマオンの荒野にいた。

サウルとその部下はダビデを捜しに出て行った。このことがダビデに知らされたので、彼は岩場に下り、マオンの荒野にとどまった。サウルはこれを聞き、マオンの荒野でダビデを追った。

■ダビデが逃れたのは、荒野でも岩場が続く、さらに厳しい土地。命がけの逃走。



【運命の分かれ道】 I サムエル23:26～27

サウルは山の一方の側を進み、ダビデとその部下は山のもう一方の側を進んだ。ダビデは急いでサウルから逃れようとした。

サウルとその部下が、ダビデとその部下を捕らえようと迫って来たとき、一人の使者がサウルのもとに来て、「急いで来てください。ペリシテ人がこの国に襲いかかって来ました」と言った。



【エン・ゲディへ】 I サムエル23:28～29

サウルはダビデを追うのをやめて帰り、ペリシテ人の方に向かった。こういうわけで、この場所は「仕切りの岩山」*と呼ばれた。

ダビデはそこから上って行って、エン・ゲディ
* の要害に住んだ。

*「分かれの岩(口語訳)」

* 岸壁がそそり立つ死海のほとりのオアシス。

■ 信仰を深めるダビデと、闇に陥るサウロと、大きく分かれていった二人の道。



詩篇 54 篇

指揮者のために。弦楽器に合わせて。
ダビデのマスキール。

ジフの人たちが来て、サウルに
「ダビデは私たちのところに隠れているのでは
ありませんか」と言ったときに。

- 54:1 神よ あなたの御名によって 私をお救いください。
あなたの力強いみわざによって 私を弁護してください。
- 54:2 神よ私の祈りを聞いてください。
私の口のことばに耳を傾けてください。
- 54:3 見知らぬ者たちが私に立ち向かい
横暴な者たちが私のいのちを求めています。
彼らは神を前にしていません。セラ

54:4 見よ神は私を助ける方。

主は私のいのちを支える方。

54:5 神は 私を待ち伏せる者たちに
わざわいをもって報いられます。

あなたの真実によって 彼らを滅ぼしてください。

54:6 私は 心からのささげ物をもって
あなたにいけにえを献げます。

【主】よ あなたの御名に感謝します。すばらしい御名に。

54:7 神がすべての苦難から私を救い出し
私の目が敵を平然と眺めるようになったからです。



Ⅱ. ダビデ、サウルを見逃す

I サムエル記25章

エン・ゲディ

【サウル軍の討伐隊】 I サムエル24:1~2

サウルがペリシテ人を追うのをやめて帰って来たとき、「ダビデが今、エン・ゲディの荒野にいます」と言って、彼に告げる者がいた。

サウルは、イスラエル全体から三千人の精鋭を選び抜いて、エエリムの岩の東に、ダビデとその部下を捜しに出かけた。



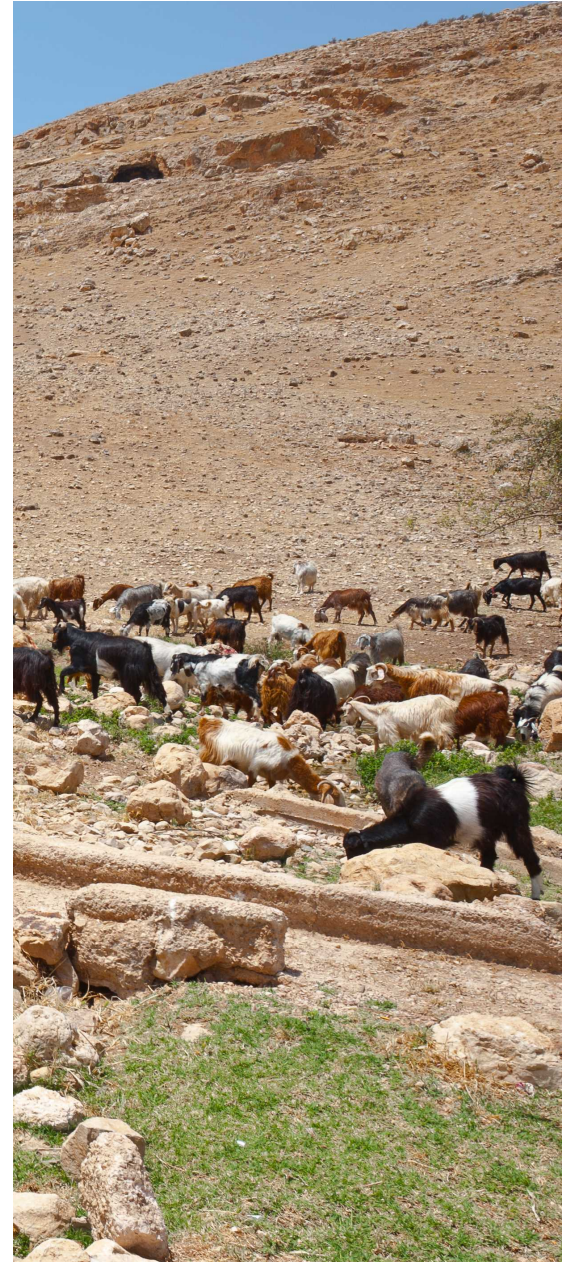
【洞穴の中で】 I サムエル24:3~4

道の傍らにある羊の群れの囲い場に来ると、そこに洞穴があった。サウルは用をたすために* 中に入った。そのとき、ダビデとその部下は、その洞穴の奥の方に座っていた。*

* 威厳ある王が人前でというわけにはいかない。

当然、部下が洞穴の中も調べたはずだが…。

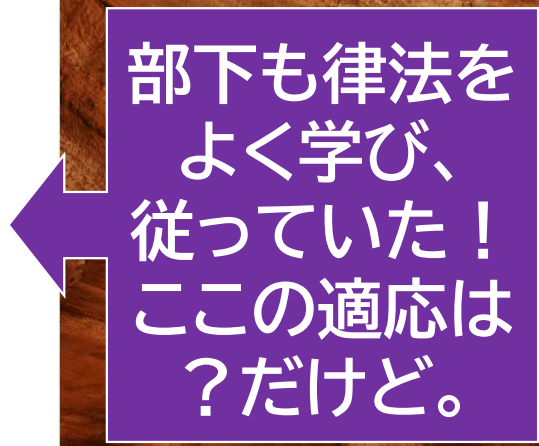
* 付近に分散して隠れていたのだろう。



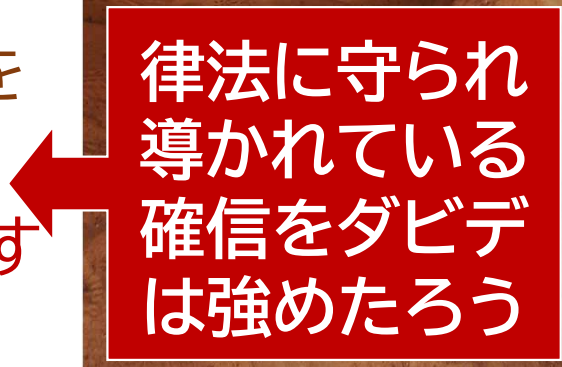
【洞穴の中で】 I サムエル24:4

ダビデの部下はダビデに言った。「今日こそ、【主】があなた様に、『見よ、わたしはあなたの敵をあなたの手へ渡す。彼をあなたの良いと思うようにせよ』と言われた、その日です。」ダビデは立ち上がり、サウルの上着の裾を、こっそり切り取った。

【申命記23:12～14】 また、陣営の外に一つの場所を設け、そこへ出て行って用をたすようにしなければならない。武器とともに小さな鍬を持ち、外でかがむときはそれで穴を掘り、用をたしてから排泄物をおおわなければならない。あなたの神、【主】が、あなたを救い出し、敵をあなたに渡すために、あなたの陣営の中を歩まれるからである。



部下も律法をよく学び、従っていた！
この適応は？だけど。



律法に守られ導かれている
確信をダビデは強めよう

【サウルを見逃すダビデ】 I サムエル24:5~7

後になってダビデは、サウルの上着の裾を切り取ったことについて心を痛めた。

彼は部下に言った。「私が【主】に逆らって、【主】に油注がれた方、私の主君に対して、そのようなことをして手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。彼は【主】に油注がれた方なのだから。」

ダビデはこのことで部下を説き伏せ、彼らがサウルに襲いかかるのを許さなかった。サウルは、洞穴から出て道を歩いて行った。

■手を汚さず身をきよめ、律法の本質に生きるダビデ。



【サウルに呼びかけるダビデ】 I サムエル24:8~10

ダビデも洞穴から出て行き、サウルのうしろから呼びかけ、「王よ」と言った。サウルがうしろを振り向くと、ダビデは地にひれ伏して、礼をした。そしてダビデはサウルに言った。

「なぜ、『ダビデがあなたに害を加えようとしている』と言う人のことばに、耳を傾けられるのですか。

今日、【主】が洞穴で私の手にあなたをお渡しになったのを、あなたの目はご覧になったのです。ある者はあなたを殺すようにと言ったのですが、私は、あなたのことを思って、『私の主君に手を下すことはしない。あの方は【主】に油注がれた方だから』と言いました。」



【サウルへの訴え】 I サムエル24:11~13

「わが父よ。どうか、私の手にあるあなたの上着の裾をよくご覧ください。あなたの上着の裾を切り取りましたが、あなたを殺しはしませんでした。それによって、私の手に悪も背きもないことを、お分かりください。あなたに罪を犯していないのに、あなたは私のいのちを取ろうと狙っておられるのです。

どうか、【主】が私とあなたの間をさばき、【主】が私のために、あなたに報いられますように。しかし、私はあなたを手にかけることはいたしません。

昔のことわざで『悪は悪者から出る』と言います。私はあなたを手にかけることはいたしません。」



【神への訴え】 I サムエル24:14~15

「イスラエルの王はだれを追って出て来られたのですか。だれを追いかけておられるのですか。死んだ犬の後でしょうか。一匹の蚤の後でしょうか。

どうか【主】が、さばき人となって私とあなたの間をさばき、私の訴えを取り上げて擁護し、正しいさばきであなたの手から私を救ってくださいますように。」

■ ダビデは、訴えの最後に、すべてを主にゆだねた。



【叫ぶサウル】 I サムエル24:16～18

「ダビデがこれらのことばをサウルに語り終えたとき、サウルは「これはおまえの声なのか。わが子ダビデよ」と言った。サウルは声をあげて泣いた。

そしてダビデに言った。「おまえは私より正しい。私に良くしてくれたのに、私はおまえに悪い仕打ちをした。

私に良いことをしてくれたことを、今日、おまえは知らせてくれた。【主】が私をおまえの手に渡されたのに、私を殺さなかったのだから。」



【御心を知ったサウル】 I サムエル24:19～20

「人が自分の敵を見つけたとき、その敵を無傷で去らせるだろうか。おまえが今日、私にしてくれたことの報いとして、【主】がおまえに幸いを与えられるように。

おまえが必ず王になり、おまえの手によってイスラエル王国が確立することを、私は今、**確かに**知った。*」

■知識としては知っていた。この時はじめて、
ダビデが王となることをサウロは実感した。



【誓い】 I サムエル24:21～22

「今、【主】にかけて私に誓ってくれ。私の後の子孫を断たず、私の名を父の家から消し去らないことを。」

ダビデはサウルに誓った。サウルは自分の家へ帰り、ダビデとその部下は要害へ上って行った。



詩篇 57 篇

指揮者のために。「滅ぼすな」の調べで。
ダビデによる。ミクタム。

ダビデがサウルから逃れて洞窟にいたときに。



57:1 私をあわれんでください。
神よ。
私をあわれんでください。
私のたましいは あなたに身を
避けていますから。
私は 滅びが過ぎ去るまで
御翼の陰に身を避けます。

57:2 私は いと高き方
神を呼び求めます。
私のために すべてのを成し遂げて
くださる神を。

57:3 神は 天から助けを送って
私を救い
私を踏みつける者どもを
辱められます。 セラ
神は 恵みとまことを 送って
くださいます。

57:4 私のたましいは
獅子たちの間で
人の子らを貪り食う者の間で
横たわっています。
彼らの歯は 槍と矢
彼らの舌は 鋭い剣です。

57:5 神よ あなたが天で
あなたの栄光が
全世界であがめられますように。

57:6 彼らは 私の足を狙って
網を仕掛けました。
私のたましいは
うなだれています。
彼らは 私の前に穴を掘り
自分でその中に落ちました。
セラ

57:7 神よ

私の心は揺るぎません。

私の心は揺るぎません。

私は歌いほめ歌います。

57:8 私のたましいよ

目を覚ませ。

琴よ豎琴よ目を覚ませ。

私は暁を呼び覚まそう。

57:9 主よ 私は国々の民の間で あなたに感謝し
もろもろの国民の間で あなたをほめ歌います。

57:10 あなたの恵みは大きく 天にまで及び
あなたのまことは 雲にまで及ぶからです。

57:11 神よあなたが天で あなたの栄光が全地で
あがめられますように。





Ⅲ. まとめと適用 ダビデが見つかった希望の源

エン・ゲディ

【言い逃れの余地のないサウルの罪】

- 王権がはく奪され、主が新たな王を立てられたこと。
ダビデこそ、神が選んだ王であること。いずれもサウルは知っていた。
- にも関わらず、むしろ、だからこそ、サウルは王権に固執し、
ダビデの命を執拗に狙った。
- 命を助けられ、泣いて叫び、ダビデの王権を認めたサウルだが…。
謝罪の言葉は口先だけで、元来た道に帰っていった。
- 本当にダビデを神が油注がれた王と認めたならば、
サウルは、すぐさま王権をダビデに移譲すべきだった。

行動が伴わないのは、悔い改めではない!!

【ダビデに学ぶ、世の不条理と苦難の乗り越え方】

■常に何より優先すべきは、主に聴き従うこと。

ケイラの奪還もそこからの脱出も、ダビデは、主に忠実に従った。

➡人々の人望を得たことは、後の王政の下地となっただろう。

■敵への裁きは、主にゆだねること。主の權威を恐れること。

ダビデは、サウルに手をかけず、恐れをもって神の裁きに委ねた。

■ダビデは、この時代に第一に従うべき神の律法に忠実に従った。

「レビ記 19:18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは【主】である。」

【ダビデの究極的な希望はどこにあったのか？】

- 苦難を通し、己の無力さを思い知らされたダビデが望んだのは、自分が王になることではなく、**真実の王が来られる**こと。
- ダビデの詩篇のそこかしこで歌われている、来るべきメシアの影。

57:2 私は **いと高き方** 神を呼び求めます。
私のために **すべてを成し遂げてくださる神**を。

57:3 神は **天から助けを送って私を救い**
私を踏みつける者どもを辱められます。セラ
神は **恵みとまこと**を送ってくださいます。
- 女の子孫(創3:15)、ユダの子孫(創49:10)として来られるメシアこそ、**真実に油注がれた方**である。
➔ **メシアは、約束をすべて成就し、信じる者を救う、恵みと真実の神。**

【ダビデが信じ従ったこと。私たちが信じ従うべきこと】

- 信仰とは、神が示した約束への信頼の応答。
- ダビデは、律法による約束と、個人的神の語りかけを信じて従った。
- 今の時代に求められるのは、福音を信じ、キリストの律法に従うこと。
信仰者の最大の使命は、福音宣教。
み言葉の解き明かしによる訓練を受け、世に遣わされていく。
- 責任は、知識の量に比例する。聖書の学びを深めるほどに、神に応える責任は大きく問われていく。

信じることは、当然、行うこと。行いのない信仰は死んだもの。

【苦難の中であぶり出される私たちの信仰の本質】

- コロナ禍でむしろ、これまで以上に熱く伝道に燃えている人々がいる。
➔この人々こそ、30倍、60倍、100倍の実を結ぶ人だと教えられる。
- この一年、何をしてきたか、してこなかったか、一人一人問われている。
- これからも歩み続けていくために、求められるのは信頼し続けること。
- 苦難は、己の無力さを突きつける。人に人の期待に応える余力はない。
シンプルに、主に与えられた使命に生きよう。ただ、それだけでいい。
- これ以上そぎ落とすものなど何も無い、主の永遠の真理に立とう。

救いの御業を成し遂げた主イエスは、王の王として来られる!!

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主イエスは、聖書(せいしょ)が約束(やくそく)した、救(すく)いの御業(みわざ)をなしとげられました。

まもなく、王の王、裁(さば)き主(ぬし)として来られます。

天に挙(あ)げられる、その瞬間(しゅんかん)まで、忠実(ちゅうじつ)に主に従(したが)い、使命(しめい)に生きる者としてください。

よろこびをもって福音を告げ、苦難(くなん)の中でも淡々(たんたん)と聖書を学び、人々に解(と)き明(あ)かして行くことができますように。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」